

393

300

方言
言也

5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

始



竹内 向村 著

方言

やつと かめ

半田 郁文 舎 發行

393-300

目次

| | |
|--------|---|
| 名詞之部 | 一 |
| 動詞之部 | 一 |
| 形容詞之部 | 一 |
| 副詞之部 | 一 |
| 助動詞之部 | 一 |
| 天爾遠波之部 | 一 |
| 反語之部 | 一 |
| 感動詞之部 | 一 |
| 接續詞之部 | 一 |
| 接頭語之部 | 一 |
| 接尾語之部 | 一 |

序

文學博士佐々政一氏は修辭法講話中正しき國語の條件てふ題下に有効に思想を傳へようとするには先づその用語が正しき用語でなくてはならぬ。「かたこと」をいつたり、外國語を使つたり、宛字を書いたり、假名遣を間違へたりしては、先方に意味が通じない。と述べられた。然らば正しき國語とは如何なるものを云ふか、歐米の修辭學者や辭書編纂者などは、國語の正否を斷定すべき正しき標準として、多く次の三項を數へてゐる。

- 一、現代的語句なるべきこと
- 二、國民的語句なるべきこと
- 三、雅馴なるべきこと

右三項中佐々博士は國民的語句てふ題下に「國民的語句といふのは國民の教育のあつたあつたが一般に用ひる語句といふことである。國民中の少數の人ばかりが用ひるものには種々の語句がある。その主なるものは、外國語と方言と術語とである」と述べられた。

斯ういふ見地から見ても、吾人は方言を排して正しき國語を使つて有効に思想を傳へなくてはならぬ。然らば當地方には如何なる方言が行はれてゐるだらう？之を拾集して見ようといふのが此の小冊子を出す一の動機となつた。今一つは嘗て友人から受けた刺戟であつた。



大正十年九月

向村生識

方言「やつとかめ」を出すに際して

二

自分が師範學校に在學の頃、夏休みも済んで歸校した時友人に「やつとかめだナア」といつて「知多郡の常滑焼のことか？ やつとかめといふ麴は」などと冷笑されたことは未だに忘れようとしても忘れ得ない一事である。斯ういふやうなことが動機になつて方言について調べようといふ氣になつた。

自分が小學教育に従事して既に三年、其の間或は教壇上に立ち、或は運動場に於て將又街を往き圃中を散歩し折に振れ時につけ方言を拾集したのが此の小著である。

二

或地方にのみ行はれる語を方言といふ。之を用ひてはならぬことは今更いふまでもない。關東ベイ、京都サカイ、乃至は長崎のバツテン、佐賀のカンタ、バンタ等の如き甚しいものになると、外國語よりも更に難解で、其のまゝに文字にしては意味の通じないやうなものもある。けれ共世の中にはその方言を捨てないことを一種の愛郷心かの如く信じてゐる人々もないではない。

現今の所謂愛郷心は、動もすると封建時代の遺風を伴つて、島國中に更に小さい地方的感情を養はしむるものでその根柢から既に價値の疑はれるものである。斯ういふ見地からみて國語の教育に於ては先づ斷乎として方言を用ひざらしめぬことに注意すべきであらう。

三

しからば兒童の方言を如何にすべきかといふ問題に立ちいたるがこれは實際上甚だむづかしい問題である。國語の統一といふ点から考へると、なるべく早くから方言を排除したのであるが、小學校の二三年位の兒童に、全く方言を混じらない文を作らせるといふことは至難であらう。

だから兒童をして會話の上に方言を除かせることを先にし、最初は讀本中に未だ見えない語は方言で書いても差支のないこととして、而して後に文章に及ばすより外はあるまい。

四

僕は前に述べた様な動機で此の小著をなしたのだが、尙ほ机の抽出の隅から出た古い原稿帳に書いてあつた大正七年の年頭の所感を見るにつけいろ／＼爲さうとする事はあるけれど共せて此の小著なりとも 東宮殿下の御渡歐遊ばされし今年を紀念すべく出したくなつた。その年頭の所感と「玉簾」てふ戯作は當時を追想するために載せて置いた。

一九二一年九月萬感を懷いて

半田の寓居にて

向村生識

例言

一、方言は主として半田及び其の附近に行はるゝものを「いろは」順を以て網羅せしが由來半田は名古屋との交通繁く、言葉に於てもこれに類するもの多きを見る。

一、方言を分ちて名詞（代名詞をも）動詞、形容詞、副詞、助動詞、天爾遠波、反語、感動詞、接續詞、接頭語、接尾語となす。

一、調査の項を語類、範圍、摸範語及注意事項の五欄とし語類は方言を掲げ範圍は方言の行はるゝ範圍を示し語解は方言の有する意味を説明し注意事項は方言轉訛の由來等につきて臆説を附記せり。

年頭の所感（大正七年）

一休禪士は「門松や冥途の旅の一里塚目出度もあり目出度も無し」と云つた。

孔子の曰はれた「七十而從心所欲不踰矩」と云ふ人生の峠に既に達して、日毎降り坂に在る人は門松を見て喜ばないだらう、悲觀するだらう。

けれ共今尙前途遼遠の我は門松を見て喜ばざるを得ないのである。時と不斷の努力によつて昨日より今日、去年より今年と、より良い結果を得て彼岸の光明に歩一歩と近づくからである。

昨日迄は何だか子供のやうな氣がして居つたが大正七年を迎へ、滿二十歳となり、年が改まつて今日となると一度に大人になつたやうな妙な氣がする。年齢のまだ十幾つといふ頃は差程にも思はなかつたが二十幾つとなると一度に大きな階段を攀ち上つたやうな氣がする、十九と二十の間に何ものか大なる隔段の差があるやうな感があるのである。

徴兵の話など聞けば餘所ごとのやうに思つて居たのが徴兵猶豫願などを出すやうな年になつたのだ。小さい事ばかりに思を寄せてゐた頭も何となく大きな大人氣の頭になつた。

年頭に當つて浮んだのは足掛け四年にもなる歐洲大戰亂の我國に及ぼせる影響である。歐洲の大戦亂も今年中には終りを告げるであらうと思はれる。戦後如何に世界の大勢が變化するかは容易に觀測を下し得ないが、兎に角歐洲の現状は打破されて新生面を開くことは、いづれにしてもあるべきことゝ豫想される所である。其の結果日本までも其の影響

を及ぼす事と思はれる。戦後必ず日本は自分の好む好まないに關らず是非共世界の競争場裡に立つて働かなければならない事となるに相違ないだらう。

我國は最早斯うなると日本の日本でなく、亞西亞の日本でなく、實に世界の日本である日本國民も亦日本の日本國民を以て甘んじてはならない、實に世界の日本國民たるの覺悟がなければならん。

日本は今や極東の舞臺から世界的舞臺に出たのであるから、此の國民生活の位置を自覺して近眼的な教授をすることなく、世界の大局に着目して世界的智識及人格の教養をしなければ富國強兵の實を擧げ、國威發揚の道を開くことは出来ないのであると思ふ。吾等は過去を思ふ必要は無い、勿論過去も大事である、假令過去に於て失敗したとしても今になつて後悔するは愚である。現在を確實に歩一歩と過去に送り未來に生きんとする者である。未來の勝者となる覺悟である。此の意味に於いて大正七年は大いに努力しようとする年頭に當つて感じた。

玉簾のさゝやき

僕はもと習字教室の南に居つたが多くの友達と一緒に此所へ來た。

此所へ來てから六年……變化に富むだ生活を續けて居る。僕の居る座敷は毎週一年乙が掃除に來て呉れる。

僕は石蒜科の系統で「スイセン」や「マンジュシヤケ」とは親類仲間である。夏の初めから秋にかけて白い花を開く、けれ共毎日夕方になると凋むで、翌朝お日様が段々昇る頃になるとまた開く。

七月の初め頃であつた。大廊下を通る白服の生徒が「ヤア綺麗ダナア！」と僕を見て歎賞して行くのが屢々あつた。

去る十八日、此の學校の今泉先生が四年乙の作文の文題を出す時に僕を選まれた。先生はチャウクを取つた時窓外に咲いてゐる僕等を見て「ヤア卑近な題だ……面白い」と思つてか塗板に玉簾と書かれた。

此の事があつてから四五日後の事である。

T 玉簾て此の花だつた予！

Y さうだ……之だつた、

T 僕ね 玉簾なんてごんな花だらうかしらんと思つて圖書室へ行つて、植物圖譜

を撥ねて調べたら此の花だった。

Y 僕も理科辭典で見たのだ。

T 僕はね 此の花を見ても別に感想が浮かばん……………

Y さうだ子!

始まる喇叭が響いた。話は吐絶れた。TとYは何處へか去つた。

僕はTとYが語り合つた話を聞いて感心もし、寒心もした。が然し一年乙の頃にはTもYも文題を出されてから間もなく書物を調べたのは感心した。が然し一年乙の頃には毎週僕の側に来て仕事もし、毎日數回大廊下を通る度に僕を歎賞しながらも其の學名さへも知らんといふのは誠に寒心に堪へない。それも將來教育者となる師範生が……………否數日ならずして教生となる四年生が斯んな卑近なものゝ名を知らないと云ふに至つては沙汰の限りである。

師範生てふ者はこんなものだらうか、こんなに非常識な……………こんなに悲觀的なる者だらうか?

名詞之部

兒童間に多く聞く語類

- いげ
- いゑき
- いび
- いわかし
- ぼーやあい
- とね
- おんぼ
- わろち
- がに
- かこゑ
- めめず
- しどめ
- ひろしき
- ひぼ

摸範語

- ゆげ
- うゑき
- ゆび
- ゆわかし
- おひあひ
- とひ
- を
- わらち
- かに
- かこひ
- みみず
- しどみ
- ふろしき
- ひも

- 語解
- 油氣
- 植木
- 指
- 湯沸
- 追ひ合ひ
- 樋
- 尾
- 草鞋
- 蟹
- 圍
- 蚯蚓
- 蜆
- 風呂敷
- 紐

方言語類

い之部

いげ 一般
 いがご 全
 いゑき 全
 いび 全
 いね 全
 いちこ 一部
 いぢこ 全
 いなひをけ 全
 いなみ 下流
 いす 全
 いわかし 全
 いげん 全
 いねん 全
 は之部
 ばば 一般

行はるゝ範圍

語解

模範語

二

注意事項

湯氣 湯子 赤子 植木 指 上 繩にて作れる畚の類 全
 擔桶 南 柚 湯沸 油煙 全
 老婆 全
 ゆげ 湯氣
 あかご 湯子
 うゑき 植木
 ゆび 指
 うへ 上
 びく 繩にて作れる畚の類
 全
 になひをけ 全
 みなみ 全
 ゆす 全
 ゆわかし 全
 ゆねん 全

に之部

はんこ 全
 はくしよ 全
 はんごん 全
 はつち 全
 ばーば 幼年
 ぱつぱ 全
 ばーや 一部
 ばば 下流

半剃の小兒頭
 嚏 半日休
 蜂 祖母
 煙草 老婆
 糞

くしやみ
 はち
 たばこ
 ふん

音聲を移したものと
 日曜をどんたくと
 いふより來る

下級のものに對し

ほ之部

にんじ 一般
 にーや 幼兒
 にー 全
 にやーにや 全
 ほー 一般
 ぼーやあい 全

胡蘿蔔 兄 猫

にんじん
 あに
 全
 ねこ

音をうつしたもの

坊(男兒)
 追ひ合ひ

おひあひ

三

ほーた

全

頬

ほゝ

四 「た」は接尾語として多くつく

ほーたね

全

全 襦袢

全 ぼろ

ぼつこ

全

全 螢

全 ぼろ

ほたろ

全

全 螢

全 ぼろ

ほーたいろ

全

全 螢

全 ぼろ

ほつたろこ

一般

全 螢

全 ひざさら

ぼんぼん

全

全 膝皿

全 ふどころ

ぼんぼ

全

全 懐餅

全 もち

ほどころ

全

全 餅

全 かももち

へんてつ

一般

全 搔き餅

全 へび

へんび

一部

全 漁籠の一種

全 へび

べと

全

全 泥

全 ぎもの

べー

全

全 衣服

全 きもの

と之部

へ之部

田の面より来るか

全 輕蔑の意を含む

ごんは接頭語なり

とーも

とこ

とね

とつか

とべ

とべくそ

とつくり

とんがらし

とーすみ

とんま

とんぞこ

ごち

とんこ

とんど

とゝ

ごんたくれ

ちんちくりん

一般

全

全

全

全

全

全

全

全

全

一部

全

幼兒

下流

一般

田圃

處

樋

處々

末席

全

德利

唐辛子

燈心

常識を缺けるもの

最下底

しみたれ

鉤

玉蜀黍

魚

無頼漢

たんぼ

とこ

とひ

とくり

とーがらし

とーしん

たうもろこし

うを

ならずもの

短き衣

ち之部

ちよーさいぼー 全
 ちび 全
 ちーち 幼兒
 ちんぎり 全
 ちよちよげ 全
 ちやまが 下流
 ちーや 全

ぬ之部

ぬけ 一般

お之部

おーかめ 一般
 おぐら 全
 おぐらもち 全
 おたまぐつ 全
 おひなあいさま 全
 おんぼ 全
 おぞいこと 全

腑抜けの意

愚弄せられたる者
 短小なる者
 祖父
 片足にて飛ぶ遊
 後頭部に残れる毛
 茶釜
 老爺
 ちやがま
 腑抜けの意
 狼
 鼯鼠
 全
 科斗
 雑人形
 尾
 過失
 おほかみ
 むぐら
 全
 おたまじやくし
 おひなさま
 を

おーひざ 全
 おじや 全
 おはち 全
 おしやべ 全
 おこは 全
 おてんどさま 全
 おから 全
 おんか 全
 おんばこ 一般
 おんばこ 全
 おんつ 下流
 おんた 全
 おぐいす 全
 おのれ 全
 おれ 全
 おらー 全
 おしゝ 幼兒

安坐
 雑炊
 飯櫃
 多辨
 強飯
 太陽
 豆腐洋
 浮鹿子
 車前草
 全
 雄
 全
 鶯
 汝
 己
 全
 小便
 あぐら
 おしやべり
 うんか
 おんばこ
 全
 うぐいす
 おぬし
 おのれ
 全

(つ)は接尾語か
 (た)は全

わ之部

わりき 一般
わきつちよ 全
わや 全
わやく 全
わんぱく 一般
わろち 全
わらんじよ 下流
われ 全

か之部

かためつこ 一般
がんち 全
がいろ 全
からすおごし 全
がに 全
かみすり 全
かんこ 幼児

脇所の轉か

よ之部

かつこ 全
かこぬ 全
がき 下流
がむしやら 全

よご 一般
よばれ 全
よむぎ 全
よーなび 全
よーさ 全
よーさり 全
よいたんぼ 下流
よいたくれ 全

た之部

たーけ 一般
だいこ 一般
たのき 全

全 園
子供 かこひ
理非を辨せざる者

涎 くだれ
饗應を受くる事 よもぎ
蓬 よなべ
夜業
夜 全
泥酔者 全

白痴 たわけ
大根 だいこん
狸 たぬき

たんぼこ
だぐくさ
だんだ
たした

全 全
全 幼兒

蒲公英
粗糲
洗湯
足袋

たんぼぼ
たび

そ之部

そつちや
そ

全 一般

其處
裾

そちら
すそ

つ之部

つもご
つよ
ついり

一般 全 全

晦杖
梅雨

つごもり
つゑ
つゆ

ね之部

ねぶか
ねんね
ねささま
ねじ

一般 幼兒 全
下流

葱
稚兒
虹

にじ

な之部

なきびそ
なぎぶそ
なりんぼ

一般 全 全

よく泣くもの
全
癩病者

む之部

むかせ
むせ

一般 僅

蜈蚣
店

むかで

う之部

うつかりもの
うけす
うんこ

一般 全 幼兒

油斷者
目高魚
大便

めだか

の之部

のんのんさま
のーのさま
のろ
のんだくれ
のみすけ

幼兒 全 下流 全 全

神、佛、月
全
魯鈍の者
泥醉人
大酒家

く之部

くさぼこ

一般

叢

くろ

全

隅

くちなは

一般

蛇

や之部

やかん

一般

禿頭

やかんす

全

全

やかんつ

全

我儘なるもの

やんちや

全

火傷

やけすり

全

遣り直し

やらないこ

幼児

ま之部

まーいめ

一般

眉毛

まはし

全

準備

まいまいぎつちよ

幼児

旋回する事

け之部

けちんぼ

一般

客齋家

げつ

全

末席

ふ之部

ぶち

一般

鞭

ふしやく

全

柄杓

ふすべ

全

黒子

ふげ

一部

髭

ぶー

幼児

湯茶

ぶくり

全

木履

こ之部

こーらい

一般

玉蜀黍

こま

全

獨樂

こくごー

全

蕩兒

ごたく

全

贅言

ごんぼ

全

牛蒡

こつちや

全

此處

藥罐の轉

手まはしの畧か

まゆげ

ひしやく

ひげ

下駄

たうもろこし

こま

ごぼー

こちら

御託の意か

ここなて
このへい
こけ
ごつさま
中以下

え之部

ねんりよー
ねらいま
少年 一般

此邊
己
馬鹿
他人の妻を指して
遠慮
得意

て之部

でんち
ですこ
できもの
でんでんむし
てのごひ
でべそ
てつぽ
でばちよ
一般 全 全 全 全 全 一部

袖無の衣
額の出た面
腫物
蝸牛
手拭
外出好きの人
筒袖
自高魚
めだか

あ之部

あいさ
あかる
あつちや
あかべー
あくど
あいよ
あま
一般 全 全 全 一般 下流 幼児

間隙
明
彼處
拒否を表す動作
踵
行歩
女兒
あちら
かど

さ之部

ざい
さいり
さつくり
一般 全 全

塵拂
秋光魚
吃逆
さんま
さくり

采の意よりか

き之部

ぎしやく
ぎつちよ
きんによー
ぎおせん
一般 全 全 全

磁石
左得手
昨日
飴
じしやく

ぎよーじや

きせろ

きしよろ

ぎやいろ

きもん

きりもの

ゆーれん

ゆーれん

め之部

めんぱち

めめす

めぞ

めんつ

めつた

めつくりだま

めつかち

めんめ

全 下流

全

全

全

全

一部

全

全

全

全

全

全

一般

全

幼児

薤

煙管

全

蛙

着物

全

幽霊

目高魚

蚯蚓

溝

雌

痘痕

眼

片目

眼

きせる

全

行者も食ふとより

めめ

み之部

みたらし

みしろ

みね

し之部

じやけら

しわんぼ

しげやき

しみたれ

じす

しーし

しつこ

しよんべ

しどめ

じようり

じより

全

一般

全

全

一般

全

全

全

全

一般

幼児

全

全

全

全

全

串團子

蓆

棟

冗談

客齋家

鶺鴒

身の取締悪しき者

數珠

小便

全

全

全

草履

全

全

むしろ

むね

むね

むね

むね

しぎやき

じゆす

じゆす

じゆす

じゆす

しじみ

しじみ

しじみ

しじみ

じばん 全
しこー 一部

ひ之部

ひろしき 一般
ひぼ 全
ひよこたん 全
ひこつ 全
ひよつとこ 一般
びや 全
ひきすり 全
ひち 全

も之部

もも 一般

せ之部

せきだ 一般
せび 全

繻絆 じゆばん
酒肴を用意する事

風呂敷 ふうしき

紐

瓢箪

理屈

馬鹿者

枇杷

小鍋にて肉類を煮て直ぐ食す

質

植物實の一般總稱

雪駄

蟬

す之部

すいの 一般
すこ 一般
すぶろく 全
すぶぬれ 全
すんべらぼう 全
すりこげ 全
すべた 下流

篩

頭

泥酔

全滯

稜角なき状態

播粉木

女を罵る時の稱

すいのう

すりこぎ

動詞之部

兒童間に多く聞く語類

いごく
いるむ
いつちやつた
ぬすぶ
のをなつた
のぐ
ぐざる
ぐづつく
けなるがる
する

語解
動く
弛む
言つてしまつた
結ぶ
無くなつた
脱ぐ
叱る
不平をいふ
羨む
剃る

方言語類

い之部

いごく
いかつせる
いわしたる
いわせる
いかす
いがむ
いちめる
いれる
いるむ
いちる
いする
いつちやつた

行はるゝ範圍

語解

模範語

注意事項

一般 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 全 一部 下流

動く
行かる
懲らす
全
行かん
曲む
困らす
焦燥する
弛む
強請する、弄ぶ
ゆるする

うごく
ゆかる
ゆかう
ゆがむ
ゆるむ
ゆるする
言つてしまつた

は之部

はしよくる
はんまくふ

一般 一部

裾を掲ぐ
豫期に反する

はしをる

ほ之部

ほつたる 一般
ほかる 全
ほろつた 一部

へ之部

へつこむ 一般
べそかく 全
へちる 全

と之部

とんがへる 一般
ごけ 全

ち之部

ちよーらかす 一般
ちびる 全
ちよごむ 全

投げる

全
拾ひたり

窪む

泣きかゝる

素直ならざる事

ひつこむ

倒る

避けよ

のけ

欺く

吝む

尿を漏らす

しやがむ

下さい

端坐する

頂戴の畧かすわる

ぬ之部

ぬすぶ 一般
ぬかる 全

る之部

るりがまわらん 一般

を之部

をられた 一部

か之部

がやがやいふ 一般
からかう 全

かまう 幼児

かしよ 下流

がみつく 全

た之部

だまくらかす 一般

言語が明瞭ならず

來られた

噪ぐ

喧嘩する

苦しめる

貸せ

怒聲を發す

瞞着する

手抜かるの畧か

呂律がまはらぬ轉

貸せよの轉

駄目の意となる

たまらん

たらす

たらかす

だちかん

だちやかん

つ之部

つつからかす

ね之部

ねらむ

ねめる

む之部

むかつく

う之部

うつちやつた

うせる

うしやがる

うせせん

堪はられず

慰む

全

埒あかず

全

突き倒す

にらむ

全

睨む

鬱憤する

棄てた

来る、居る

来ず、居らず

うざる

の之部

のぐ

のをなつた

のたる

のたくる

く之部

ぐづる

ぐざる

くだれた

くりよ

ぐづつく

くそくらへ

や之部

やきもちやく

やらんか

やしむ

全

一般

全

全

全

一般

全

全

全

全

下流

全

一般

全

全

小言を言ふ

脱ぐ

無くなつた

跋涉する

全

強請する

叱る

下された

呉れよ

不平をいふ

強く拒否する時

ぬぐ

下されたの畧

くれよの畧

・いやしむの意

ま之部

まごつく 一般
まいつた 一般
まらう 下流
まらつどこか 全

け之部

けなるがる 一般
けつらかす 全
けぼつく 全
けたいくそがわ 全
けるい 全
けつかる 下流

ふ之部

ふく 一般
ぶつとく 一處
ぶるくる 全
ぶつ 全

狼狽する

恐れ入つた

貫ふ

貫つて置かう

もらふの約

羨む

蹴散らす

意外に驚きてけぼ
けぼする

縁喜が悪るい

居る

拭ふ

捨て置く

吊り下ぐ

倒す

ぶちよおちる

ぶつつく

こ之部

こく 一般
ころばかす 全
ころがらかす 全
こーわかす 全
こねる 全
ごてつく 全
こける 全

落ちる

小言をいふ

ぶちおちる

言ふ

倒す

轉がす

怒る

故障を唱ふる

混雜する

倒るる

坐する

え之部

ゑつこする

て之部

でんがへる 一般
てれる 全
でつくわせる 全

倒る

羞づる

出遇ふ

あ之部

あやかす 一般
あらせん 全
あれへん 全
あーぬく 全

誑す
有らず 全
仰く 全

あふむくの轉

き之部

きつぱりする 一般
きやす 全

判明する
消す

め之部

めかす 一般

飾る

し之部

しまつとく 一般
しよげる 全
しまつた 全
しとねる 全
しからした 全
しやちこばる 全
しをたれる 全

仕舞つておく
恥づる
失敗した
育つ
叱りたり
剛情に威張る
凋るゝ

ひ之部

してやる 全
しぼつてやる 一般
ひつくりかへる 一般
ひかる 全
ひろつく 全
びりこく 全
ひよろつた 幼児

暴力を加ふ
苦しめる
顛倒する
叱る
食物を見て欲しくする態度
縮み上る
拾つた
しかる

も之部

もぞつく 一般

虫の皮膚を這ふ感

す之部

すかたんくふ 一般
すかくふ 一般
すたこく 全
する 全
すゞむ 幼児

虚に遇ふ
虚に遇ふ
苦しみ勞する
剃る
沈む
そる
しづむ

形容詞之部

方言語類

行はるゝ範圍

語解

模範語

注意事項

い之部

いかつい

一般

不遜にして嚴格を粧ふ者

いきすぎ

全

出過ぎたる

いやらしい

婦人

厭ふべく

は之部

ばばい

幼兒

不潔

に之部

にすい

一般

弱き

へ之部

へんてこな

一般

異風なる

と之部

とろい

一般

愚なる

とろくさい

全

全

とべつた

全

懸隔したる

とんだ

全

非常なる

とんでもない

全

思ひもよらぬ

とへつもない

全

大なる

ち之部

ちいせい

下流

小さい

ぬ之部

ぬくとい

一般

暖なる

お之部

おそがい

一般

恐ろしき

おんなし

全

同じ

か之部

かこくさい

一般

紙片等の焦げる臭

かにかちの

全

堅固の

かにかんな

全

堅固なる

た之部

だいつーな
たけい
たいもねい
一般
下流
全

そ之部

そそつかしい
そそくさ
一般
全

つ之部

づつない
つもい
一般
全

ね之部

ねぶたい
一般

な之部

なまかわな
一般

ら之部

らつしもない
一般

う之部

華な
高し
体もなき

軽卒なる
急遽なる

苦しき
無理に物を穴に入
れる時用ふ

眠むき

怠惰なる

亂雑なる

うんなし

幼兒

同じ

や之部

やーらかい
やーらこひ
一般
全

ふ之部

ぶよぶよ
一般

こ之部

こすい
こつぱい
こそばい
こそべたい
一般
女
全

え之部

えらい
一般

あ之部

あまつたらこい
下流

悪る甘き

苦しい

柔軟なる

柔かき
全

狡猾なる

非度き

羞痒い

全

ひ之部

ひつこい 一般

ひごい 全

ひよぼい 全

ひごるい 一般

ひよんな 全

ひらくたい 全

ひちくごい 全

す之部

すねこい 一般

すこい 全

すかたらん 下流

執念深き
濃厚過ぎたる食物

甚だしき

弱き

眩き

變な

平き
くだくしき

執拗に

執拗な

狡猾な

好かざる

副詞之部

い之部

いつつか 一般

いきなりばつたり 全

は之部

ぱーぱー 一般

ばーばー 全

に之部

にやほや 一般

ほ之部

ほかほか 一般

ほきん(へきん) 一般

ほつてり 全

ほかん 全

疾くに
なるがまゝに

縮りなしに

曖昧に

湯氣の立つ様、
轉じて事業の初を
さす

物の折るゝ様

豊肥なる

放心して

ほけん
ほんごに

全 全

實は

へ之部

へつごに

下流

容易に

へーご

全

と之部

とつくり

一般

篤と

とんど

全

更に

とつさり

全

多數に

とつしり

全

強く

としんど

一般

強く

とつち

全

何れ(方角)
物の選擇

とんちんかん

全

調子外れ

とちんばたん

全

不整

ち之部

ちやつと

一般

早く

ちやんと

全

正しく

ちびつと

全

少しく

ちよびつと

全

全

ちつきに

全

直に

ちよきに

全

初に

ぬ之部

ぬんめんだらり

一般

折目切目なしに

か之部

がつと

一般

過度に

た之部

だしぬけに

一般

不意に

たらふく

全

充分に

たつた

全

僅か

たつたいま

全

只今

だいなし

全

全く

たつたご

全

早く

たんと

全

澤山

たいだい

全

態々

だゞくさ 全

そ之部

そつと 一般

そーと 全

そーそと 全

ね之部

ねつちもこつちも 一般

ねつちもさつちも 全

ねつから 老女

な之部

なんせ 一般

なんなら 全

なほしか 全

む之部

むきつけに 一般

むざと 全

むつと 全

粗雑

静に

全

全

抜き挿しも

全

一向に、更に

何故に

成るべくなら

猶更

忌憚なく

無作と

憤然と

むちやくちや

う之部

全

無分別に

うつそ

うじやうじや

うんめ

うめ

うんね

一般

全

全

全

幼兒

否

糜爛したる

禁止する意

全

否

の之部

のさのさと

のこのこと

のそのそと

のべつに

のらくら

のら

一般

一般

全

全

下流

全

無遠慮に

無遠慮に

全

間斷なしに

遊惰

全

く之部

ぐれんぐれん

一般

萎よ萎よ

や之部

やつとかめ
ねつとかめ
やけ
一般
全

ま之部

まーはい
まつくろけ
まんだ
まんざら
女
全
全
全
一般

け之部

げたげた
げらげら
一般
全

ふ之部

ぶつつり
一般

こ之部

ころつと
こんだけ
一般
一般

久し振りに
全

最早宜し

真黒に

未だ

全く

最早

笑ふ様
全

断然と

遂に

これだけ

え之部

えろー
えろ
全
一般

て之部

てんで
一般

あ之部

あやすー
あんのじよー
あだに
あんばよー
あべこべ
ありやこりや
あばね
あばよ
あばねー
一般
全
全
全
全
全
一般
幼児
全
全

さ之部

大いに
全

最初から
全く

容易に

果して

随分と

塩梅よく

反對に

反對に

左様なら

全

ざーざー

一般

亂れたる様

さいなら

女

左様なら

き之部

きちんと

女

整然と

きちつと

み之部

みじやみじや

一般

微塵に

し之部

しよーとく

一部

眞實に

ひ之部

ひよつとしたら

女

動もすれば

も之部

もぞもぞ

一般

虫の皮膚を這ふ感

もちやもちや

全

亂雜

もちやもちや

全

全

す之部

すんでのことに

一般

も少しで

すつくり

全

全く

すつかり

一般

全く

すつべり

全

全

するするべつたり

全

きまりなく延々と

助動詞之部

方言語類

語解

未來之部

まい 食^くまい (食はむ)。書^かまい (書かむ)

まいか やろまいか (行はむ)。食^くまいか (食はむ)

す いかす (行かんとす)

す 行か^しすと思つたがやめた (行かうと思つたがよした)

打消之部

せん 有れせん

へん 有れへん

ん だちかん

敬稱之部

せる 行か^つせる (行かる)。叱^らつせる (叱らる)

天爾遠波

方言語類

語解

じよ (ぞ) 誰某が來たじよ。居るじよ

とて (無論の意) 君も行くのか? 行くとて

に (から故) 待つとるに早く來なさい

もん (ものをの意) 急いでも行かれんもん

反語之部

方言語類

語解

すか

そんな事があらずか（其の様な事があるものか）

感動詞之部

方言語類

語解

あれ〜（おやおや）

あれ〜（そうか）

わー（わい）

わーわー。見けんわー

わいも（名古屋訛）

見けんわいも、書けんわいも

なも（全）

あのなも。そしてなも

ねも（全）

あのねも。そしてねも

ぎやーも（疑を含む）

行ときやーも（行かむか）

ぎやーも（全）

そーきやーも

ぎやーも（断定を含む）

こーだぎやーも

よー

あーだぎやーも

やー

あのよー（あのねー）

やー

お出でやー（お出なさい）

接續詞之部

方言語類

語解

さいが

こうするとさいが

さいと

こうするとさいと

さいがと

こうするがさいがと

接頭語之部

方言語類

語解

ど(罵る意を含む)

どぬすと(ど盗人)

どねらい

つぶ(全く)

つぶぬれ

でん

でんがへる

ぶち

ぶちおちる

どん

どんがへる

接尾語之部

方言語類

語解

とる(てをるの畧) だまつとる(黙つて居る)。何言つとる
 とく(てをくの畧) 捨てとく
 たる(てやるの畧) 捨てたる
 かす だまくらかす。たらかす。ねらかす。
 くる のたくる。ぶるくる(吊るす)
 こく すたこく。びりこく
 くふ すかくふ
 やる してやる。しぼつてやる(苦める)
 はる しやちこばる。くたばる
 かる けなるがる(羨む) 苦しがる。嬉しがる
 雨が降りやがる。何言やがる

げな
 た
 ちよ
 つ
 こ
 ら
 さ
 け

行つたげな
 ほした(頬)。ももた(股)。びんた(鬢)
 あまつちよ(女を卑しめて)。わきつちよ
 かんつ。めんつ。やかんつ(禿頭)
 かためつこ(片目)
 がむしやら(我武者ら)
 よーさ(夜)
 まつくるけ(眞黒)

大正十年十二月三日印刷
大正十年十二月六日發行

愛知縣知多郡半田町字前明山六拾六番地

著者兼發行人 竹 內 義 王

愛知縣知多郡半田町字勘內五拾四番地

印 刷 人 日 比 格

愛知縣知多郡半田町字北條壹番地

印 刷 所 郁 文 舍

393

300

終

